

長久手市地域公共交通計画(案)についてのパブリックコメント実施結果

1 実施状況

- (1) 募集期間
令和6年1月9日(火)から令和6年2月7日(木)まで
- (2) 計画案の公表・配布
企画政策課窓口、情報コーナー、西小校区共生ステーション、市が洞小校区共生ステーション、北小校区共生ステーション、南小校区共生ステーション、まちづくりセンター、市ホームページ
- (3) 概要説明会
日時 令和6年1月13日(土)午前10時から午前11時まで
参加者 3名
内容 計画(案)の説明、質疑応答

2 意見の提出人数、件数

2名、5件(パブリックコメント 1件、概要説明会での意見 4件)

3 意見の内容及び市の考え方

以下の表のとおりです。

①パブリックコメント			
No.	項目	意見内容	市の考え方
1	p64、65 Nーバスと市外の公共交通機関との連携	長久手市の北東部(特に大草・北熊・前熊地域)は交通の便等から、長久手市中央部よりは、自家用車で瀬戸市の幡野町～山口駅の商店を利用することが多い。移動手段を考えると、リコモ/Nーバスを考えるものの、名鉄バス路線は思いつきにくい。時刻表など、他事業者はまたがったものを作成を検討してほしい。	→今後の取組を検討する際の参考とさせていただきます。 現在配布中の「長久手市公共交通マップ」には、長久手市内の全ての公共交通の路線を示しています。時刻表については、一部の路線については掲載しているほか、二次元コードでの案内を行っている状況です。また、インターネットでも、GTFS(※)を公開している路線であれば、出発地と目的地を入力することで経路検索ができるサービスも普及しています。公共交通のさらなる利用促進策の展開にあたっては、引き続き他事業者と連携しながら進めていきたいと考えています。 ※経路検索サービスや地図サービスへの情報提供を目的としてアメリカで策定された世界標準の公共交通データフォーマット。インターネット等での経路検索などに用いられている。長久手市のNーバスもGTFSを公開している。
②概要説明会での意見			
No.	項目	意見内容	市の考え方
2	p29 (3)移動に関連する取組の現状	○①買い物リハビリ、②たすけあいカーについて、利用実績も合わせて掲載されていると良い。	→それぞれ実績を追記します。加えて、p24障がい者タクシー料金助成、p25Nーバスフリーパス券・回数券、p29高齢者外出促進事業の実績も追記します。
3	p40 (9)市内を移動しやすくするために必要と思う公共交通 p65 ③新たな移動手段導入の検討	○デマンド型交通を望む声が増加しているとアンケート結果から分かるが、適切に計画事業に反映されていないように感じる。 現状、p65からは、Nーバスの利用が少ないため、デマンド型交通を含む新たな移動手段導入の検討を進めると記載されている。デマンド型交通導入の理由づけを、Nーバスの利用が少ないためとするのではなく、デマンド型交通を望む声があるためとしてはどうか。	→p40のアンケート結果について、アンケート質問の趣旨が十分に表現できていなかったため、Nーバスのあり方を考える上での質問であることを補足します。 p40「市内を移動しやすくするために必要と思う公共交通」に関するアンケート結果について、アンケートの質問文は「今後のNーバスのあり方について、高齢化が進むことが見込まれる中、市内を移動しやすくするために必要と思う公共交通はどのようなものですか。」というものでした。そのため、p40(9)の見出しをこの設問どおりの表記とします。 p65については補助交通(Nーバス)の確保のための施策という位置づけのままさせていただきます。

No.	項目	意見内容	市の考え方
4	p58 6-1(3)市内公共交通の定義づけ p59 6-2(1)将来像	○「地域の移動資源」について、地域公共交通計画とは切り離して考えた方が 良いのではないかと考える。 本来、道路運送法の範囲でない運送(福祉分野など)が参入している状況であるが、別のものであると考える。	→このままの表記とします。 地域の移動資源も含めて「地域交通ネットワーク」と捉えて計画事業を推進していきます。 令和2年の地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の改正により、「従来の公共交通に加え、地域の多様な輸送資源を総動員した取組」を地域公共交通計画の対象とすることとなりました。この改正を受け、福祉有償運送などを「地域の移動資源」として、地域交通ネットワークの1つと捉えて考えることで、今後5年間の事業を進めたいと考えています。
5	p61 6-3基本方針を実現するための取組の方向性	○市東部において、「公共交通ネットワーク改善の検討」を進めるとあるが、ネットワークではないと考える。「ネットワーク」という言葉は適切ではないように感じる。	→このままの表記とします。 公共交通同士が接続し合い、移動網が構築されていることで市民の移動を支えていることから、1つの移動手段だけではなく、公共交通同士のつながりを視野に入れた「ネットワーク」という視点から改善の検討を目指す方向性を示し、取組を進めていきたいと考えています。